

# 2014年5月 虎の門ヒルズ 竣工

2014年 3月10日

東京都港区虎ノ門1-23-4



日本一の高層ビル「あべのハルカス」(高さ300メートル)が先日、大阪にオープンしたばかりだが、東京にも新しいランドマークとなる「虎ノ門ヒルズ」がオープン控えている。虎ノ門ヒルズとは、東京都が施行し、森ビルが建築を進める再開発ビルで、その名の通り、東京・虎ノ門地区に建設される。

高層ビルの地下には、かつて「幻のマッカーサー道路」と呼ばれた環状2号線が新しく開通するなど、建物だけでなく、都市の交通インフラとの一体事業として注目を集めている。

フロア構成は

- 1階～4階が商業、
- 6階～35階がオフィス、
- 37階～46階がレジデンス、
- 47階～52階がホテル。



まず、象徴的なのが、高さだろう。中小規模のビルが密集する**虎ノ門**地区において、天に届くかのごとくそびえるタワーは、まさに壮観。高さ247メートルは2007年にオープンした東京ミッドタウンに1メートル及ばないものの、都内で2番目の高さとなる。地上52階地下5階建て、延べ床面積は24万4360平方メートルで商業施設、オフィス、ホテル、住宅、カンファレンスが入る。

47階～52階には、日本初進出となるハイアットホテルズの高級ホテル「アンダーズ 東京」が入り、52階のチャペルは都内で最も高い場所にあるチャペルとなる。

高さ、施設だけでなく、建築物としても注目を集めている。**高層ビル**の地下には、環状2号線本線がトンネルとして貫通。道路建設とビル建設、という似て非なる技術を融合して実現させた技術大国日本の真骨頂とも言えるもので、トンネル内の振動や騒音などの影響が高層ビルに及ばないように設計されている。また、タワーには3種類の制振装置を適材適所に設置し、耐震性や快適性も考慮されている。

さらに、この環状2号線は、念願の道路だった。「幻のマッカーサー道路」と呼ばれ、戦後、まもなく決定された都市計画に盛り込まれながら、土地買収などさまざまな課題があり、60年以上も実現されなかった。今回、道路の上下空間にも建物が建築できる立体道路制度の活用によって、道路整備と再開発の一体事業として実現。長年の念願が実を結ぶこととなる。都心を通る大動脈として、都心部の渋滞緩和も期待されている。

また、トンネルの地上部分(環状2号線の地上部分)に整備される「新虎(しんとら)通り」には、幅40メートルの道路が整備され、片側最大13メートルという、ゆとりある歩道部が確保される「新虎通り」をフランス・パリ、シャンゼリゼ通りのような、シンボリストリートにしたい、という地元の声もあり、開通をきっかけに周辺の開発が進むことが期待される。虎ノ門ヒルズは、オフィス街だった虎ノ門エリアを変化させる起爆剤として、竣工が待たれる。

東京都の発表によると、3月29日に新橋・虎ノ門間の環状2号線が開通し、5月には虎ノ門ヒルズが竣工予定。官民一体となって進めた、東京再生における一大プロジェクトだけに、今後も目が話せそうにない。



この新しい道路は虎ノ門から築地までの1.35キロ・幅員40米で、至近のアメリカ大使館から東京港まで直行しているため、人々はマッカーサー道路と呼んで、進駐軍の輸送目的に計画されたものだと言われてきた。本当は東京都の都市計画道路だそうで2005年に着工、いよいよ本年供用が開始されるが、将来は築地から豊洲方面まで延伸する計画だそう。注目されるのは虎ノ門1丁目付近で、道路が地下に潜る入り口の上に、52階建ての高層ビルが建つのである。森ビルによって造られるこの高層建築は「虎ノ門ヒルズ」と命名され、地上255.5米と都内でも2番目の高さのビルとなる。素人目にはトンネルの上にこんな巨大建築を建てる事が奇異にうつるが、地震などに対してはきつと緻密な構造計算が為されている事だろう。